

令和7年 9月定例会 市長提案説明

9月定例会の開催に当たりまして、所信の一端を申し上げますとともに、今議会に提案いたしました、議案の概要につきまして、ご説明申し上げます。

はじめに、去る7月30日、東公園動物園一の人気者でありましたアジアゾウの「ふじ子」が、天国に旅立ちました。国内のアジアゾウでは4番目に高齢の57歳でありました。人間に例えれば、80歳から85歳とのことです。ふじ子は、昭和57年、14歳のときに、本市の親善都市であります広島県福山市の民間施設から譲り受け、43年の長きにわたり、多くの市民や来園者に愛されました。

8月1日からゾウ舎の前に設置いたしました献花台には、1か月で1万8千人を超える皆様にお越しいただきました。また、福山市の枝広直幹市長も、献花のために、東公園をご訪問くださいました。訪問後、福山市役所においても「ふじ子」の追悼コーナーが設置されました。長年の交流を続けてまいりました福山市とも悲しみを分かち合い、相互理解をさらに深められたことに都市交流の意義を再認識いたしました。

あらためまして、長きにわたり、深い愛情をもってふじ子を見守り続けていただきました皆様方に、感謝とお礼を申し上げたいと思います。

また、今後につきましては、現在、ふじ子の全身骨格標本の製作に着手しておりますので、早ければ、来年の夏以降、ゾウ舎にて展示をし、一般開放をしながら、ゾウの生態や、ふじ子の足跡など紹介できればと考えております。また、東公園動物園の新たな魅力創造に向けた検討にも着手してまいりたいと考えております。

次に、東岡崎駅周辺の整備につきましては、予定通りに駅前の道路下をくぐる地下道の閉鎖やバスターミナルの仮移転が完了しまして、その後も順調に、岡ビルや旧バスターミナルの解体が進んでおります。

こうして工事が着々と進められておりますのも、皆様のご理解とご協力のおかげでありまして、改めてお礼を申し上げます。

さて、そのような中ではありますが、南口では仮設公衆トイレの設置が完了したことを始めとしまして、バス待合の方などがご利用いただけるように、東改札棟に仮設ベンチや自動販売機を設置するなど、少しでもご不便のないよう努めているところであります。

今後も、工事の進捗に伴い、駅の中や外で歩行経路などの変更も予定をされておりまして、今しばらくご不便をおかけいたしますが、令和11年度の完成を目指し、引き続き着実に整備を進めてまいりますので、期待してお待ちいただきますようお願いいたします。

今年は、岡崎城公園が誕生して150年という節目の年にあたります。それを記念して、三河武士のやかた家康館では、9月7日まで「岡崎城公園開設150周年記念企画展」として、「岡崎城公園150年のあゆみ」を開催しております。

明治6年の、いわゆる廃城令により、岡崎城は廃城に指定されましたが、県は岡崎城の旧本丸跡地を公園として整備をし、明治8年、1875年の9月に岡崎公園が開設されました。その後、岡崎城天守復興や岡崎博開催、三河武士のやかた家康館開館などを経て、令和6年12月には岡崎公園から岡崎城公園へと改称し、新たな歴史を刻み始めております。

家康館では、岡崎城公園の150年のあゆみを、絵葉書や写真などの関連資料から振り返っております。ぜひ企画展にお越しいただき、市民の皆様をはじめ多くの方に岡崎城公園への関心を深めていただければ幸いです。

この8月2日に開催いたしました花火大会は、近隣住民の皆様を始め、多くの皆様のご支援とご協力により、16万3千人の観覧者をお迎えするなかで、事故なく安全に開催することができました。

近年では、安全面や資金面などの理由で、花火大会が中止となる地域もあるなか、多くの協賛金と近隣住民の皆様のご理解をいただきながら、今年も三河花火発祥の地として、伝統ある花火大会が開催できたことを誇りに思っております。

翌日には、早朝より近隣住民の皆様、地元中学生や地元企業、並びにボランティア団体の皆様に会場周辺の清掃をしていただきました。
あらためて、敬意と感謝を表する次第であります。

また、8月11日には、籠田公園前伝馬通りにおきまして、岡崎城下家康公夏まつりが開催され、フィナーレでは、担ぎ手100名の皆様による約2トンの味噌六太鼓の担ぎ上げが6年ぶりに復活いたしました。
開催にあたり、ご尽力いただきました皆様には心から感謝を申し上げます。

本定例会には、令和6年度の一般会計、特別会計及び企業会計の決算認定議案を、監査委員の意見を付けて提出しておりますので、その概要を説明いたします。

まず、一般会計の決算の概要であります。

一般会計の決算規模については、歳入は1,577億9,876万円、歳出は1,485億4,257万円となりました。

歳入歳出差引額から繰越事業への充当財源を引いた純剰余金は、約65億円となり、貯金である、財政調整基金の令和6年度末の残高は、約91億円となりました。残高が100億円を下回るのは、平成22年度以来、14年ぶりであります。

一般会計は黒字決算で、健全な財政状況に見えますが、財政調整基金の残高が大きく減少していることから、これまでのように「健全な財政状況を維持している」とは言い難い状況であります。

コロナ禍以降、財政調整基金に大きく依存した財政運営を行ってきましたが、その間、残高が大きく減少し、このままでは年度間の財源調整としての機能はもとより、災害などの不測の事態が発生した場合に、機動的な財政出動が出来なくなるおそれもあります。

そのため、これ以上、財政調整基金残高を減らすことなく、持続可能な財政運営のためにも、財政調整基金残高の回復が急務であると考えております。

歳入は、歳入全体の45%を占める市税が、定額減税の影響による市民税個人などの減により、市税全体で、前年度と比べ約2億円減収となる、約709億円となりました。

歳出は、福祉分野の支出となる民生費が全体の40%を占める約595億円と最も多く、次いで土木費、教育費、総務費、衛生費の順となりました。

次に特別会計であります。

11会計の総計では、歳入は約708億円、歳出は約700億円で、純剰余金は、約8億円となりました。

最後に企業会計であります。

病院事業会計では、入院患者数は前年度と比較して増加したものの、外来患者数は、新型コロナワクチン接種人数が減少したことにより前年度と比較して減少しました。

決算状況は、収入において、入院・外来収益ともに増加したものの、新型コロナウイルス感染症関連の補助金の減少などがあり、前年度と比べますと約18億円の減少となる、約8億1,400万円の純損失となりました。

水道事業会計では、給水戸数は前年度と比較して増加したものの、給水人口は減少しており、普及率は99.9%で前年度と同率となりました。

決算状況は、費用において、委託料や他会計負担金の増などにより、前年度と比べ、約2億9,200万円の減少となる、約4億6,700万円の純利益となりました。

下水道事業会計は、下水道への接続戸数、接続人口ともに前年度と比較して増加しており、普及率は90.0%で前年度と比べ、0.6ポイントの増加となりました。

決算状況は、収益では、農業集落排水事業を下水道事業に会計統合したことに伴う下水道使用料の増があったものの、費用においては、減価償却費

の増加などにより、前年度と比べ、約3億1,500万円の減少となる、約1億5,300万円の純損失となりました。

以上が令和6年度決算の概要であります。

令和6年度は、人件費や扶助費といった義務的経費の増が、市税収入の増を上回る大変厳しい状況の中、当初予算編成において財政調整基金の取崩額を過去最大の55億円として基本施策を確実に推進し、第7次総合計画に掲げる着手済みの計画事業も、国県支出金のほか、特定目的基金や市債等を積極的に活用することにより、着実に推進したと言える一方で、財政調整基金残高が大きく減少していることから、持続可能な健全財政を継続するための課題となっており、まさに「今が正念場」であると考えております。

現在、非常に厳しい財政状況ではありますが、こどもと子育て家庭を支援する環境づくりを充実させるとともに、工業団地造成事業、アウトレットを核としたまちづくり事業、東岡崎駅第2期整備事業や南公園整備事業に加え、少子高齢化対策を始めとする基本施策にもしっかりと取り組み、このまちに生まれ育った子どもたちが、自らのふるさと・岡崎に対し、これまで以上の大きな愛情と誇りを持てる、「夢ある新しい岡崎」の実現に取り組んでまいります。

賃金上昇による人件費の増加や物価高騰対策に加え、さまざまな社会経済情勢の変化などに留意しつつ、財政調整基金の残高確保に努めることや、市債残高に注視しながら、中長期的な財政収支の見通しを持って、安定的な財政運営の取り組みを推進してまいります。

次に、本議会に提案しております議案について、説明させていただきます。

まず、条例議案であります。制定条例といたしましては、廃棄物処理施設の整備、脱炭素社会の実現に資する事業や、その他の持続可能な社会の構築に資する事業に要する経費に充てる資金を

積み立てるため、必要な事項を定める「未来環境整備基金条例の制定」の1件であります。

次に、改正条例といたしましては、受益者負担の適正化を図るため、公の施設の使用料の額などを改定する「岡崎市地域交流センター条例の一部改正」はじめ21件 のほか、新設する児童育成センターの名称及び位置を定めるとともに、児童育成センターの持続的な運営を図るため、育成料の基本額を見直しする「岡崎市児童育成センター条例の一部改正」など7件で、さきの制定条例1件と合わせまして、29件を提案させていただきます。

その他議案といたしましては、岡崎駅南土地区画整理事業などに伴う市道路線の廃止及び認定や、岡崎市立岩津中学校及び矢作中学校の大規模改修工事に係る「工事請負の契約」、中央総合公園野球場の改修工事にあたり、来年開催されるアジア・アジアパラ競技大会の会場となることを見据え、更衣室のロッカー100台を更新する「物品の取得」など、9件を提案させていただきます。

続きまして、補正予算議案であります。一般会計の補正は、6億893万円の増額、特別会計は 10億1,052万2千円の増額、企業会計は、5,500万円の増額であります。5月にいただきました4会派からの要望書に対しても最大限配慮をいたしました。

総務費は、急増する自動車の盗難などの被害に対する緊急対策として、住宅に取り付ける防犯カメラなどの購入費を補助する、防犯用具等購入費補助金の計上、度々の招へいを頂き10月に予定していたニューポートビーチ市への姉妹都市交流事業について、日程の調整が困難となったこと、および、来年への更なる延期は、本来の周年事業の趣旨とは外れることとなるため中止とすることによる委託料の減額

民生費は、物価高騰の影響を受ける市内の私立保育園等を支援するための給食費軽減対策支援給付金等の計上のほか、公立保育園の給食提供において、食材料費の高騰が続くことによる賄材料費の増額、

衛生費は、岡崎げんき館の照明設備について、LEDへの交換工事を実施するための工事請負費の計上、

農林業費は、自然災害等による作物の育成不良等のリスクに対応する農業経営収入保険制度への加入を支援するための補助金の計上、

商工費は、物価高騰の影響を受けている開業して間もない市内創業者を対象に支援を行う、おかざき創業者物価高騰対策支援事業費の計上、

土木費は、阿知和地区工業団地関連道路整備事業において、早期に用地を取得する必要があるため、土地購入費等の増額、

消防費は、自主防災組織等が設置する届出避難所について、避難所として必要となる簡易ベッド等の備蓄品を提供するための消耗品費の計上、

教育費は、物価高騰の影響を受ける市内の私立幼稚園を支援するための物価高騰対策支援給付金の計上。

次に、特別会計であります。

阿知和地区工業団地造成事業特別会計は、

市の負担となる地下リスクについて、当初の想定よりも硬い岩盤が出現したこと等により、造成工事請負費を増額するものであります。

以上が、本議会に提案をいたしました議案の大要であります。

先ほどもご説明させていただきましたが、公の施設の使用料を改定する条例の一部改正議案を提出させていただいております。

今回の改正は、令和3年10月に策定いたしました

「公の施設の使用料の見直しに関する基本方針」に基づき、

全市的に使用料の改定を実施するものであります。施設特性により公費、すなわち税金での負担割合を定め、施設を利用されない方も含めた受益者負担の適正化を図るもので、今後も基本方針に基づき4年ごとのサイクルで使用料の見直しを図っていきたいと考えております。

続きまして、9月28日に第1回の開催を迎えます「おかざきこども会議」についてであります。

「岡崎の伝統、つなごう未来へのバトン」をテーマに、小学校5年生から高校生世代までの委員が、全6回の会議に参加します。

会議では、導入のアイスブレイクを丁寧に行いまして、年齢の近い大学生のボランティアを配置するなど、こどもたちが自由な意見を言いやすい場となるよう、工夫してまいります。

さらに、10月19日に行う第2回の会議では、テーマをより身近に感じることができるように、こどもたちが実際に岡崎の伝統芸能に触れる機会を提供する予定です。そして、12月に行われる発表の場で、こどもたちから、どのような意見や提案が出されるのか、大変楽しみにしております。

参加したこどもたちが、自らの意見を話し合い、市と対等に対話することを通して、自信や達成感を得るとともに、本市への愛情を深め、この取組が自らのふるさとに対し、より大きな愛情と誇りを抱くきっかけとなることを期待しています。

阿知和地区工業団地造成事業では、7月12日から13日の夜間にかけて、東名高速道路を通行止め規制しまして、高速道路を跨ぐ橋を架ける工事を行いました。

新たな橋を特殊な台車で約100m移動させる作業を私も深夜現地で見守っております。

工事関係者並びに近隣住民の方々のご協力により、安全に施工ができましたことを感謝申し上げます。

また、8月23日、24日の2日間で工事現場の見学会を開催し、「164名」の親子連れなどが参加されました。

多種多様な大型の建設機械を間近でご覧いただいたほか、運転席への搭乗体験、造成中である広大な敷地などを見学していただきました。

そのほか工業団地造成事業と一体で整備を進めております、本市初となるスマートインターチェンジにつきましては、本市の北の玄関口として、市民や地域にとって親しみやすく、高速道路利用者にとってわかりやすい名称となるように、複数の名称候補をお示しさせていただき、秋ごろにアンケートを実施しまして、広く意見を募りたいと考えております。

次に、名鉄バスが65歳以上の方に販売しております、定額制・乗り放題のフリーパス、いわゆる「高齢者パス」につきましては、高齢者が交通事故の当事者になる事案が多く報道もされており、今年度は高齢者の免許返納の意識づけや返納促進に対するモニター調査に御協力いただける方に対して購入費用の一部を負担してまいります。

対象者は、市内在住の65歳以上の方で「過去3年間のうちに運転免許証を自主返納された方」もしくは、「次回の免許更新までに免許返納を検討している方」とさせていただきます。

モニター参加の申請の受付は、9月10日から開始し、予算がなくなり次第、終了となります。

さて、本市の犯罪発生状況は、自動車盗難や住宅対象侵入盗が増加しており、特に自動車盗難については4月と5月の発生件数が、昨年1年間の発生件数を超えるなど憂慮すべき事態となっております。

このような状況を踏まえ、被害が多発した地区では、警察や行政、地域による合同防犯パトロールの実施や、犯罪の発生状況に応じて機動的に設置する防犯カメラを30台程度設置し、多発する犯罪に迅速に対応してまいりました。

これは総代会や地域の皆様と一体となって実施する本市独自の特徴的な取り組みであります。

今後におきましても、引き続き岡崎警察署と地域の皆様と一体となり、犯罪発生未然防止に取り組んでまいります。

8月27日、28日の2日間、岡崎中央総合公園で、岡崎商工会議所と岡崎ものづくり推進協議会とともに「第9回ものづくり岡崎フェア2025」を開催いたしました。

「エンジョイものづくり！エンジョイ イノベーション！」をテーマに、BtoB（ビートゥービー）、いわゆる企業同士の取引の商談ブースや、デジタル化、カーボンニュートラル、生産性向上など、ものづくり産業の課題解決のための提案ブースを展開するなど、多くの企業、関係機関に出展いただきました。会場は大変活気に満ちあふれ、盛況のうちに幕を閉じることができました。

ものづくり産業を取り巻く環境は、国内外を問わず、日々変化を続けております。そうした激変の時代においても、岡崎のものづくり産業が、将来に向けたイノベーション創出に挑戦し続けていることを、改めて確認できた素晴らしいイベントとなりました。

来年のアジア・アジアパラ競技大会の開催まで1年余りとなり、競技会場となります岡崎中央総合公園体育館では、10月26日に愛知県出身タレント、須田亜香里（すだあかり）さんによるトークショーや競技体験を行う1年前イベントを開催し、本大会に向けて盛り上げてまいります。また、アジアフレンドシップ事業につきましては、8月に市民会館で開催された「ワールドフェスタ」への市内の大学生ボランティアの参画や、学校フレンドシップ事業として、市内の小中学校27校で、サッカーやアーチェリーなどのスポーツ教室のほか、アジアの料理・文化に触れる体験授業が予定されており、アジア・アジアパラ競技大会の周知、機運の醸成を図ってまいります。

この11月6日から9日には、WRCフォーラムエイトラリージャパンが開催されます。

本市では、9日に岡崎中央総合公園内をコースとする岡崎スーパーSSと額田SSを同日開催できることになりました。岡崎スーパーSSは、昨年よりも走行距離が増え、これまで以上にラリーカーの迫力を近くで体感できるコース設定となっています。今年度は子ども無料招待券を先着1,000名分用意しております。9日の岡崎中央総合公園では、「おかざきクルまつり」としてラリーカーによる同乗走行体験のイベントなどでも会場を盛り上げてまいります。一人でも多くの子どもたちが車好きになり、将来の自動車産業を担っていただくことを期待しています。

また、日常では味わえない時速200kmのモンスターマシンを、生で体感できるのはラリージャパンしかありません。ぜひ会場に足を運んでいただければと思います。

以上、ご説明を申し上げますとともに、提出をいたしております、諸議案につきまして、よろしくご審議の上、ご議決を賜りますようお願い申し上げます、説明を終えさせていただきます。

ありがとうございました。